

生徒が輝く「日本一の農業高校」を目指して

青森県立三本木農業高等学校のホームページを訪問していただき、ありがとうございます。

本校は、明治 31 年青森県農学校として獣医科を設置して創立されました。明治 34 年には青森県畜産学校、大正 8 年には青森県立三本木農学校、昭和 18 年には青森県立三本木農業学校と幾多の変遷を経て、昭和 21 年に青森県立三本木農業高等学校と改称し現在に至ります。平成 30 年には創立 120 周年式典を終え、名実ともに青森県を代表する農業高等学校として邁進し続けております。

さて、本校は三つの特色ある教育をおこなっております。一つ目は農業に関する科目の充実です。文部科学省が定める科目のほかに、「農業経営シミュレーション」「施設園芸ビジネス」「愛玩動物」「馬学」「地球環境科学」「リサイクル資源」「環境デザイン」「計算技術」など 13 科目を開講して、地域の産業や農業の特性に合致した教育課程を編成し、日々学習に取り組んでおります。

二つ目は、実学主義に基づいた農場実習です。農業は経験と勘がものをいう産業であると言われていますが、現代はこれに加えて ICT 化やグローバル化が、そして何よりも経営感覚を持った農業経営者が求められる時代です。だと思っております。教室での座学を裏付ける実証の場としての農場は、生徒たちの「生きた」教室でもあります。実体験で学んだことを教室での授業で理論づけることもまた、大事なことです。本校農場には一年中、生き生きとした生徒の声が木霊しております。

三つ目は、文部科学省指定の農業経営者育成高等学校として寄宿舎教育を行っていることです。農業経営者育成学科である植物科学科、動物科学科の一年生は、本校の寄宿舎「志岳寮（しがくりょう）」で一年間の寮生活をしております。朝晩の農場実習を通して農業の一年間をまなぶことから、私たちはそれを「一農年（いちのうねん）」と呼んでおります。春夏秋冬を体で感じ、農業の素晴らしさと楽しさ、そして厳しさを学ぶことで生徒たちはたくましさと協調性、勤労の貴さとを身に付け、社会へと羽ばたいて行きます。併せてそれ以外の学科の 1 年生および 2、3 年生も希望者は入寮できるシステムを講じております。

次に近年の活動の一端をご紹介します。青森県が行っている、提案者事業実施制度（庁内ベンチャー事業）として「三農発『観光・スマート農業』推進プロジェクト」や GAP（Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理）への取り組みを行うなど、攻めの農業教育を展開しているところです。またグローバルな視点をもってもらいたいとの思いから台湾の高校と交流も展開しているところです。

一方、部活動においては、生徒の活躍の場は限りありません。全国制覇を成し遂げた、古豪・強豪と言われる相撲部やアーチェリー部をはじめ、全国大会出場を誇るサッカー部、ラグビー部、さらには出版物や映画にもなった馬術部など、数多くの活動が脚光を浴びています。また、農業高校の甲子園と言われる学校農業クラブ活動では全国制覇 26 回と、全国でも有数の活動を展開し高い評価を受けております。特に動物の殺処分ゼロを目指した「命の花」プロジェクトは生命の尊重と生徒たちの心の変化が注目を浴び、数社から出版物が刊行されております。このようなことから、生徒たちの様々な活動は常に全国区であると言えるでしょう。

本校は、平成 29 年に示された青森県高等学校教育改革推進計画において、農業教育の拠点校であることに加え、普通高校と統合することが決まっています。今後は、全国に類のない、多様化する世界に対応した高校教育を行う農業の高校として、更なる成長を目指していく覚悟です。皆様にはこれまでも増して本校発展のためにお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

自分の成長を肌で感じる事が出来る高校、それが三本木農業高校です。これからも地域に愛され、地域の期待に応え、地域をリードできる農業高校として、そして何よりも生徒が輝く「日本一の農業高校」を目指して、教職員一同、全力を尽くして取り組んで参ります。

青森県立三本木農業高等学校 第 33 代校長 遠 藤 剛